

徹底したコロナ対策と支援、 人にやさしい政治を取り戻すために

加藤けんいち さん (山形2区)

<https://katokenichi.jp>

1980(昭和55)年南陽市生まれ。南陽市立吉野中学・県立長井工業高校卒。21歳で難病「筋ジストロフィー」。後に車いす生活。(株)三陽製作所勤務を経て、バリアフリー推進団体設立。2018年(株)夢源(障がい者就労支援)設立・代表取締役。家族は両親・妻・娘



原田まさひろ さん (山形1区)

<https://harada-masahiro.com>

1973(昭和48)年山形市生まれ。鈴川小・第四中・山形東高卒。バレーボール全国大会出場(小・中)。慶應大学卒・LSE大学院修了・ケンブリッジ大学大学院修了・東北福祉大学大学院修了。(株)セラフィルム(福祉事業)設立。現在山形県議。家族は妻・長男・長女・母



特別 鼎談

芳賀道也
参議院議員



1958(昭和33)年山形市生まれ。山形大学附属中学・県立長井高校・日本大学文理学部卒業。YBC山形放送にてアナウンサーとして「ズームイン!!朝!」ほか多くの番組を担当。2019(令和元)年7月参議院議員初当選(無所属/会派は国民民主党・新緑風会)。現在、決算委員事・総務委・震災復興特別委

社会が抱える問題に
真摯に向き合って

— 芳賀 — この度、本年中に予定される衆議院議員選挙で、山形1区から原田まさひろさん、山形2区から加藤けんいちさんが立候補を表明されています。

まずは、原田さん、出馬を決意された理由を教えてください。

— 原田 — 新型コロナウイルスの感染拡大の対策が不十分な中でオリンピックが開催されたこと、新型コロナウイルスの経済的影響で飲食業や宿泊・観光・イベント関係の業者の方々や正社員・派遣労働者・パート・アルバイトなどの方の『経営危機』や『解雇・雇止め・シフトカット』『貧困』への対応が遅すぎ、不十分なこと、コロナ対策として高校などでオンライン授業を進めるべきなのに全国で進んでいないこと、コロナで不安な受験生に対して大学入試センター試験の英語試験の一部を『民営化』しようとして直前に中止するなど政府・与党の対応に問題があります。これら多くの問題を『新時代へリセット』するしかない、という思いで出馬を決めました。

— 原田 — そうですね。英国の社会環境は当時の日本と大きく違って人種も人々の経済状態も多様で社会のあり方を考えさせられましたし、学生たちが自ら考えたことを発言したり行動したりする姿に影響を受けました。

留学したロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(ロンドン大学経済学部)の学長は当時の労働党ブレア党首のブレインだった社会学者アンソニー・ギデンズ卿で、資本主義でも社会主義でもない『第三の道』や、経済成長と福祉充実の両立を学びました。

ケンブリッジ大学大学院では政治学者・ジェームズ・メイヨール教授からの個別指導を通じて南北問題などの国際的な経済問題を学びました。

山形に戻って就労支援の現場で10年以上働き、介護員養成研修の講師として500人近い生徒をホームヘルパーとして地域に送り出した今、社会福祉の専門家として、もう一歩進んで社会に貢献したいというのが、私の政治への想いです。

— 芳賀 — 原田さんが社会福祉の支援を目的に起業されたように、加藤さんも、誰もが住みよい「共生社会」の実現を目指して、早くから活動されてきました。今回、国政初チャレンジにける思いをお話してください。

— 加藤 — 私はこれまで『ひとりのハートが世界を変えられる』を理念に、誰もが住みやすい共生社会を目指して『バリアフリー観光』『障がい者の就労支援』などの活動をしてきました。

いま、コロナ禍のなかで、私たちの生活は大きく変化して、農業や観光、外食、イベントなどに関わる方々が経済的に追い込まれ、そのような方々を支えるセフティネットが欠ける、という社会の脆弱さや矛盾というべき課題はつきりと浮き彫りになりました。

新しい時代を築いていくために山形から挑戦していきたいと覚悟を新たにいたしました。

豊富な経験と実績で

— 芳賀 — お二人とも「弱い立場の人のためにこそ働きたい」という信念があり、強く共感します。そのうえで、ご自身のセールスポイントはなんですか？

— 加藤 — 加藤さん、いかがですか？

— 加藤 — まずは筋ジストロフィーと車いす生活の経験を生かし、障害の有無に関わらず誰もが住みよい共生社会の実現のために自ら行動してきた実績。その次に、健常と障がいを両方経験している自分だからこそ伝えられることがあること。そして自動車整備などを通じた『ものづくり』への思いと祖

父母から教わった農業への思い。最後に、地元南陽市に生まれ育った郷土愛です。

—芳賀 健常者として、障害者として、両方の経験と視点は、これからの日本、地域社会において不可欠なものだと思います。

では、原田さんのセールスポイントを教えてください。

—原田 まず、現在も福祉事業を経営しており実務経験があることです。第2に、東北福祉大学での博士論文にも書いたように『貧困対策』への問題意識が強いこと。第3に、イギリスの留学などで得

た南北問題や地域間格差など経済学・国際関係の視野です。英語のスピーチも何度もしました。

最後に『政治は弱者を助けるもの』という理念を英国留学や鹿野道彦先生から学び、県議会議員としての活動で実践してきました。

コロナを見据えた 社会の構築を目指して

—芳賀 お二人とも、実務として社会の様々な問題に対峙し、活動されてきた実績は大きいですね。私自身、お二人から学ぶことが多い、多くの気付きをいただいています。まず、衆議院議員になられてい

ご活躍が楽しみです。

原田さんは『新時代へリセット』をスローガンに掲げていらっしゃいます。具体的な政策についていかがですか？代表的なものをお聞かせください。

—原田 まずは『ゼロ・コロナ』です。昨年から政府は『アベノマスク』や『突然の休校』など場当たり的な思いつきのコロナ対策を進めてきましたが、これを変えて科学的根拠に基づくコロナ対策を徹底して進めます。そして新型コロナで経済的に追い込まれている全ての方を応援するために医療・介護・教育・保育・障がい者福祉など『ベーシック・サービス』の無償化を目指します。

—芳賀 一方の加藤さんは『ひとりのハートが世界を変えられる。』をスローガンに「誰もがワクワクできる社会」を目指したいとされています。政策の代表的な1、2点をご紹介ください。

—加藤 まず、車いすでのパラグライダーやバリアフリー観光の活動など、様々な実体験を生かして、障がい者だけでなく誰もが住み良い『共生社会』を、ここ山形をはじめとして全国で作りに上げていく決意です。そして『ウイズコロナ』『アフターコロナ』の世界では、『東京一極集中』を止めて、

地方を重視し、地域主体の活力を導き出していくことが重要です。

ここ山形で専業農家の祖父母から学んだ農業、工業高校での学びを糧に現場で汗を流してきた商工業の活性化に全力で取り組みたいと考えています。

※お二人の詳しい政策は、

ぜひ公式ホームページをご覧ください



原田まさひろさん

加藤けんいちさん

—芳賀 まずは、このコロナ禍を乗り切り、ポストコロナ、アフターコロナにおいて、山形から日本の社会や経済を変えていかなければなりません。そのためには中央重点主義から、地方の活力を取り戻していくことが大切ですね。

「SDGs」を進めるうえでも、この豊かな自然に恵まれた山形がリーダーシップを取り、持続可能な社会モデルを先駆けていく役割がいつそう増えていくはずですよ。最後になりましたが、山形の良さ、魅力、可能性など、故郷に対する思いをお聞かせください。

故郷・山形県への思い

—原田 イギリスに留学して思ったのは、山形は食べ物がいしくて季節ごとに旬の野菜・果物が様々あって本当に『食』が豊かで

す。もっと全国の人たち、海外の人たちに山形のおいしい『食』を知って味わってほしいと思います。人があつたかくて、つながりを大事にするところも山形の良いところですね。

また、『やまがた33プラン』（小学校のクラス編成を33人以下にする）など、かつてから教育に熱心な県ですね。コロナ禍のオンライン授業など『新時代』にふさわしい教育を山形から発信できるようになればと思います。

—加藤 かつて専業農家であった祖父母と田畑を耕し、作物を育てる大変さ厳しさと共に収穫の喜びを教えてもらいました。しかし今では過疎化が進みその土地は荒れ果ててしまい、当時の姿ではなくなっていました。

自分の大好きな故郷をなんとかしたいと、就労支援で開拓を初めて3年で少しずつ作物が育つようになりました。諦めなければ夢は叶うと信じこれからも様々なことに挑戦していきたいと思えます。

—芳賀 いいですね！貴重なお話をありがとうございます。

舟山やすえ議員、原田さん、加藤さんとともに心と力を合わせて、弱者にやさしい政治を取り戻し、今の日本を変えていきたい。お二人のお話をお聞きし、改めてその思いを強くしました。

舟山やすえ参議院議員から お二人にエール！

現場主義で
「新時代」に挑む
原田まさひろさん、
加藤けんいちさん。
私も応援します



原田まさひろさん、加藤けんいちさん、お二人に共通するのは、「現場主義」。原田さんは、介護人材の育成に携わる専門家として、加藤さんは、難病を患いながら、その困難を乗り越え就労支援事業にも取り組むチャレンジャーとして、ともに当事者目線での活動を行ってきました。

コロナ禍で多くの人々が困難や不安を抱えている今だからこそ、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向けて、お二人の知見と経験が必ず役立ちます。新時代に必要な人材として、芳賀さんとともに私も応援します。（国民民主党政調会長）